

クリニカルクラークシップに参加させていただいて

弘前大学医学部医学科5年 土屋敏裕

4月に三沢病院の外科にてクリニカルクラークシップでお世話になりました。弘前大学では本年度から医学科の5年生は全員、県内の病院で4週間の外科実習を行います。三沢病院には私が最初の学生として伺いました。

私は埼玉県出身です。大学のある弘前以外での生活は初めてでした。おまけに、初日は季節外れの吹雪。三沢は雪が少ないと聞いていたので驚きました。おまけに雪でタブレットを落として画面が粉々になるというハプニングも。一体どんな実習になるのか不安だらけでしたが、最終日は満開の桜に見送られたような素晴らしい実習になりました。外来や病棟での実習や腹腔鏡手術への参加など、ここでしかできない貴重な体験をさせていただきました。外科の松本副院長、池永先生、久保先生ほかスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

三沢病院の印象を一言でいえば「密度が濃い病院」でした。ダ・ヴィンチなど最新の医療設備の完備、それを使いこなせる能力の高いスタッフの存在、診療科の垣根を超えた緊密な連携など、高度かつ専門的な医療がコンパクトな施設にギュッと詰まった印象でした。同時に、人づくりの点でも優れた施設でした。学生にも成長を促す姿勢で、時には厳しく接してくださいました。「こんな病院が身近にあれば安心だな」と実習中に何度も感じたものです。

私は社会人を長く経験してから医学部に入学しました。このため、職場を視察するような視点でも三沢病院を見ていました。院内では廊下やたとえ階段室でも、スタッフの間で挨拶が交わされます。また、施設の見えない所まで清潔で、整理・整頓が行き届いています。基本的なことですが、どれだけの職場で実践できているでしょう。そして何より、スタッフの皆さんが元気で明るい！この気持ち良さは、施設を利用する患者さんにも自然と伝わっていることだと思います。そこにいっただけで元気になるのが三沢病院です。

それだからでしょうか。外来はいつも患者さんで混雑していました。たくさんの患者さんをお待たせしている様子は、学生の私でも心苦しくなりました。外来の診療は手際が良く、とても勉強になるものでした。これ以上の時間の短縮は、きっとサービスの低下と受け取られることでしょう。一方で、医師を増やすには魅力ある設備や条件の整備が必要で、費用がかかる話になります。この点は、地域の皆様のご理解が必要なことだと思います。

できれば卒業後はこの病院で初期研修を受けたいと思いましたが、優秀な先輩方が入職している施設ですので高望みかなと感じています。せめてこの経験を今後の学習に活かしていきたいと思えます。どこから見てもおじさんの私を暖かく迎えてくださったスタッフの皆様、また実習にご協力をいただいた患者さんに心からお礼を申し上げます。特に、嫌な顔一つせずにお付き合いいただいた担当患者さんには、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

実習期間：2019年4月1日～2019年4月26日